伊勢物語

（武田本）

山田清市校

古典文庫

伊勢物語

（武田本）

山田清市校

古典文庫

古典文庫第二二九冊 ©

昭和四十一年八月十五日　印刷発行　（非売品）

伊勢物語
武田本

校者　山田清市
発行者　吉田幸一
東京都板橋区熊野町三四
印刷者　帝都印刷製本株式会社

発行所　東京都（王子局区内）北区西ケ原町三ノ三四
古典文庫
電（九一九）二七一七
振替口座東京一四五九七番

凡例

一、本書は、影印の部と翻刻の部に分ち、先に翻刻の部に所収本の解題を付して刊行する。

一、影印複製の部は、九州大学附属図書館の現蔵にかかる根源本第一系統の証本「伝為家筆本」伊勢物語である。章段の見出しは通行本に従い欄外に付し、和歌初句索引では（　）内に所在の頁を示した。

一、活字翻刻第一部は、静嘉堂文庫の現蔵にかかる松井簡治博士旧蔵伊勢物語「武田本」本文である。

(イ)、翻刻に際しては、原文のまゝを原則とし、行間勘物もそのままに記載した。

(ロ)、本文傍らにイとして他本との校合を示す朱筆の書入は（朱）という注記をそえた。

(ハ)、各章段を通行本に従い分ち、始めにその章段番号をそえ、且本文に句読点

を施した。又、仮名異体字は現行体に改めた。

(二)、本文の終りに、紙質、墨色、筆跡を異にする根源本第二系統の奥書の一葉を糊で貼付するが、該本本来のものでなく、之を省いた。

一、活字翻刻第二部は、実践女子大学附属図書館の現蔵にかかる黒川真頼旧蔵「異本伊勢物語」と題簽を持つものの翻刻である。

(イ) 原文のままに翻刻し、特殊な用字も改めなかった。

(ロ) 本文には句読点をうち、その冒頭に通行本による章段番号をつけた。

(ハ) 本文の間に絵と朱記するが、絵そのものは実在しない。

一、各複製本、翻刻本、それぞれの形態、本文の性格、伝本の系統などについては、別に之を記載した。

一、影印複製を御許可下された、九州大学附属図書館、活字翻刻を御許可下された静嘉堂文庫、実践女子大学図書館、及び伝本調査に御高配を頂いた、書陵部伊地知鉄男先生、静嘉堂文庫丸山季夫氏、九州大今井源衛氏、蓬左文庫織茂三郎氏、天理図書館八木よし子氏、陽名文庫小笹喜三氏、穂久邇文庫竹本長三郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

氏、国立博物館小松茂美氏の他、山岸徳平氏、三谷栄一氏、秋山虔氏、松尾聡氏、島田良二氏、稲賀敬二氏、藤井隆氏、小川寿一氏、その他、北海道大学図書館、東北大学図書館、東京大学図書館、学習院大学図書館、中央大学図書館、尊経閣文庫、岩瀬文庫、広島大学図書館、金刀比羅宮図書館、金光図書館の各位に対し、衷心から厚くお礼申上げる。

一、又、本書の刊行を心よく御承引下された吉田幸一氏に深い感謝の意を表する次第である。

昭和四十一年一月八日

山田清市

伊勢物語

〈静嘉堂文庫本〉

一

むかし、おとこ、うゐかうふりして、ならの京、かすかのさとに、しるよしゝて、かりにいにけり。そのさとに、いとなまめいたるをむなはらからすみけり。このおとこかいまみてけり。おもほえずふるさとにいとはしたなくてありけれは、心地まとひにけり。おとこのきたりけるかりきぬのすそをきりて、うたをかきてやる。そのおとこ、しのふすりのかりきぬをなむきたりける。

かすかのゝわかむらさきのすり衣
しのふのみたれかきりしられす

となむをいつきていひやりける。ついておもしろきことゝもやおもひけむ。

みちのくのしのふもちすりたれゆへに
みたれそめにし我ならなくに　古今河原大臣哥左大臣源融寛平七年八月廿五日薨七十三

といふ哥のこゝろはへ也。むかし人は、かくいちはやきみやひをなむしける。

三

むかし、おとこありけり。ならの京はゝなれ、この京は人のいゑまたさたまらさりける時に、ゝしの京に女ありけり。その女世人にはまされりけり。その人、かたちよりはこゝろなむまさりたりける。ひとりのみもあらさりけらし。それをかのまめおとこうちものかたらひて、かへりきていかゝおもひけむ、時はやよひのついたち、あめそをふるにやりける。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

おきもせすねもせてよるをあかしては
はるのものとてなかめくらしつ

三

むかし、おとこありけり。けさうしける女のもとに、ひしきもといふ物をやるとて、

おもひあらはむくらのやとにねもしなむ
ひしきものにはそてをしつゝも

二条のきさきの、またみかとにもつかうまつりたまはて、たゝ人にておはしましける時のことなり。

四

むかし、ひむかしの五条に、おほきさいの宮おはしましけるにしのた

いにすむ人ありけり。それをほいにはあらて、心さしふかゝりける人ゆきとふらひけるを、む月の十日許のほとに、ほかにかくれにけり。ありところはきけと、人のいきかよふへき所にもあらさりけれは、なをうしとおもひつゝなむ有ける。又の年のむ月に、むめのはなさかりに、こそをこひていきて、たちて見、ゐて見ゝれと、こそにゝるへくもあらす。うちなきて、あはらなるいたしきに月のかたふくまてふせりて、こそを思いてゝよめる。

月やあらぬはるやむかしのはるならぬ
わか身ひとつはもとの身にして

とよみて、よのほの〳〵とあくるに、なく〳〵かへりにけり。

五

むかし、おとこ有けり。ひむかしの五条わたりに、いとしのひていきけり。みそかなるところなれは、かとよりもえいらて、わらはへのふみあけたるついひちのくつれよりかよひけり。ひとしけくもあらねとたひかさなりけれは、あるしきゝつけて、そのかよひちに、夜ことに人をすへてまもらせけれは、いけとえあはてかへりけり。さてよめる。

ひとしれぬわかゝよひちのせきもりは
よひ〳〵ことにうちもねなゝむ

とよめりけれは、いといたくこゝろやみけり。あるしゆるしてけり。二条のきさきにしのひてまいりけるを、世のきこえありけれは、せうとたちのまもらせたまひけるとそ。

六

昔、おとこありけり。女のえうましかりけるを、としをへてよばひわたりけるを、からうしてぬすみいてゝ、いとくらきにきけり。あくた河といふかはをゐていきけれは、くさのうへにをきたりけるつゆを、かれはなにそ、となむおとこにとひける。ゆくさきおほく、夜もふけにけれは、おにある所ともしらて、神さへいとみしうなり、あめもいたうふりけれは、あはらなるくらに、女をはおくにをしいれて、おとこ、ゆみ、やなくひをおひて、とくちにをり。はや夜もあけなむと思つゝゐたりけるに、おにはやひとくちにくひてけり。あなや、といひけれと、神なるさはきにえきかさりけり。やう〳〵夜もあけゆくに、見れはゐてこし女もなし。あしすりをしてなけともかひなし。

しらたまかなにそと人のとひし時

つゆとこたへてきえなましものを

これは、二条のきさきの、いとこの女御の御もとに、つかうまつるやうにてゐたまへりけるを、かたちのいとめてたくおはしけれは、ぬすみておひていてたりけるを、御せうとほりかはのおとゝ、たらうくにつねの大納言、また下らうにて内へまいりたまふに、いみしうなく人あるをきゝつけて、とゝめてとりかへしたまうてけり。それをかくおにとはいふなりけり。またいとわかうて、きさきのたゝにおはしける時とや。

七

むかし、おとこありけり。京にありわひて、あつまにいきけるに、伊勢おはりのあはひのうみつらをゆくに、なみのいとしろくたつを見て

いとゝしくすきゆく方のこひしきに
うらやましくもかへるなみ哉

となむよめりける。

八

むかし、おとこありけり。京やすみうかりけむ、あつまのかたにゆきて、すみ所もとむとて、ともとする人ひとりふたりしてゆきけり。しなのゝくに、あさまのたけにけふりのたつを見て、

しなのなるあさまのたけにたつけふり
をちこちひとの見やはとがめぬ

九

むかし、おとこありけり。そのおとこ、身をえうなきものに思なして

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook